



はっとり友則県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

印旛沼将来像の実現に向け

流域水循環の長期計画を策定

八千代市特集

6月県議会

一般質問

市議時代から豊富な議会経験を通じ、現在、二期目の県議会活動を続ける服部友則(はっとり・ともりの)県議は、一月県議会の予算委員会に続き、六月県議会では一般質問に登壇し、地元・八千代市のシンボルともいえる新川の水質浄化対策へ、県の取り組み姿勢をたどりました。これに対し、県は、新たな印旛沼流域水循環健全化のための長期計画を年度内に策定する方針を示しました。また、教育学部出身で教育問題に情熱を傾ける服部県議は、道徳教育の重要性に言及し、「県教委は心の教育の再建」を図るべきだと強く訴え、共感を呼びました。服部県議の主な質疑を特集しました。



6月県議会の本会議場で一般質問を行う服部友則県議

服部議員 新川は、八千代市民にとって自然豊かな潤いの場として親しまれ、市民のシンボルといえる川です。新川の水質浄化に向けた取り組み状況はどうか。また、今後の進め方は、どのように考えているのか。

県土整備部長 新川を含む印旛沼に排出される汚濁物質発生源の内訳は、市街地や農地等自然系由来のものから生活排水系由来のものまで、多岐にわたっています。このため、水質浄化対策は、流域全体で実施していく必要があることから、平成十六年二月に、二〇一〇年を目標年次として策定した印旛沼緊急行動計画に基づき生活排水対策、雨水の地下浸透、市街地のファーストフラッシュ対策、沼内の水草の再生、水位低下実験などの各種の対策を展開して

いるところです。

今後、二〇三〇年を目標年次に、新たな行動計画を伴った流域水循環健全化のための長期計画を本年度内に策定し、印旛沼の将来像の実現に向け、市町村やNPO等と協働しながら、新川を含む印旛沼の浄化に取り組んでまいりたいと考えています。

要望 新川は、印旛沼放水路ということで、結局、印旛沼の一部のようになっています。礫間浄化施設だけでは、これ以上の水質浄化はありません。定期的に水を流すよりも、もっと効果的な水草の利用等が考えられます。

都市部の雨水対策

服部議員 都市部における雨水対策の一環で、道路の浸透性舗装の整備状況はどうか。

県土整備部長 浸透性舗装は、排水路や河川への流出抑制が図られるとともに、地下水への還元により、街路樹の育成など、環境への効果が期待できると考えています。

要望 都市部における雨水対策は、近年増加傾向にある局地的ゲリラ豪雨等に対応するためにも、浸透性歩道の整備がぜひ必要である。今後さらなる整備を強く要望する。

県では、平成十三年度から歩道整備については、原則として浸透性舗装を採用してきており、平成二十年

浸透性舗装188kmで整備

PROFILE/服部友則県議

経 歴	
昭和32年5月	八千代市生れ
昭和56年3月	山梨大学教育学部卒
昭和58年1月	八千代市議初当選(6回当選)
	八千代市議会副議長
	八千代市議会議長
平成15年4月	県議会議員初当選
平成19年1月	県議会議員再選
現 職	
県 議 会	環境生活警察常任委員会委員
千 葉 県	国土利用計画地方審議会委員
自民党県連	総務委員会委員
八千代市卓球連盟	会長
八千代市防災協会	副会長
服部英数教室	経営

信頼と実績で改革ニューリーダー

県政や八千代市のご相談、ご意見を聞かせてください

はっとり友則 県議事務所

〒276-0034 八千代市八千代台西 2-4-18
 TEL. 047-485-1400
 FAX. 047-485-1443

道徳教育で豊かな人間性を!

このまちが好きだから 2月県議会一般質問 はつとり部 友もりの 則り 県議

国語力は「生きる力の基盤」

道徳教育

服部議員 人格形成の途上にある子どもたちにとっては、義務教育段階でわが国の先人の努力や、郷土・地域に暮らす人々などに学びながら、自尊心や倫理観をしっかりと持った日本人の育成が、今まさに必要ではないでしょうか。そして、この基盤となるのが道徳教育であり、心の教育の根幹をなすものであると考えます。

八千代市特集

そこで、伺います。義務教育課程の中で、道徳教育の比重を高め、心の教育の再建を千葉発で行うべきと考えられるかどうか。

教育長 道徳教育は「豊かな人間性」を培う基盤となるもので、その充実が極めて重要な課題だと認識しています。県教育委員会では、全国に先駆けて「話し方や聞き方、相手を思いやること」等をテーマとした義務教育九年間の体系的な実践プロ

グラムを作成し、各学校の豊かな人間関係を築く力の育成に向けた取り組みを支援しています。

国語教育

また、保護者も参加する道徳の授業公開や、先進的な道徳の実践事例集、心の教育啓発ポスターの作成等に取り組み、学校と家庭や地域の連携による道徳教育の充実を推進しています。

今後、道徳教育のみならず、すべての教育活動を通じて行う道徳教育の取り組みを継続し、拡充し、思いやりのある豊かな心をもち「ちばっ子」の育成に努めてまいります。



富浦学園と館山聾学校を視察する服部県議(右)

服部議員 子どもたちの学力、特に国語力の向上を図るため、国語教育に重点的に取り組むべきと思うがどうか。読書教育を含めて伺いたい。

教育長 県教委では、「学校教育指導の指針」の中で、国語力を「生きる力の基盤」と位置づけ、日々の国語教育を重視しているところであります。特に、今年度は(1)県独自に開発した小・中学校の教員の授業づくりに関与する「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの普及、(2)教員や保護者が参加する「ちばっ子まなびフェスタ」での、先進的な学校図書館の活用事例の提示など、言語活動や読書活動の充実に向けて、各校を支援してまいります。

職員負担軽減

服部議員 学校現場の負担軽減について、県教委はどのように取り組んでいるのか。

教育長 教職員が、学習指導や生徒指導など、児童・生徒と向き合う時間を確保することは重要であり、そのためには事務負担の軽減が必要だと認識しています。そこで、県教委は「学校を対象とする事務量軽減検討チーム」を庁内に設けて、学校を対象とした会議

や調査等の統廃合など、合わせて百六十九件の改善をするとともに、文書処理の簡素化、電子メールやファックスの積極的活用等、調査実施の際に留意すべき事項をまとめた指針を策定したところであります。現在、それぞれの職場で、指針等に基づいて学校現場の負担軽減のための取り組みを進めているところですが、この取り組みは単年度で終わるものではないので、今後とも継続して業務の改善に取り組んでまいります。

要望 教員が学習指導、生徒指導、部活指導等に対し、重点的に時間が割けるよう事務室を強化する。そのため、県や市町村の

「子ども急病電話相談」が効果

る、または退職教員を活用するなどして、教員の事務を分割する体制ができないか検討することを要望する。

服部議員

軽度の症状の患者が、高度医療機関で受診することがないよう、医療機関の役割分担に応じた受診を促進するため、県民への周知にどう取り組んでいくのか。

森田知事

患者が病気の状態に応じ、適切な医療機関を受診することは、限られた医療資源を有効に活用するために大変重要です。そのため、県や市町村の

一方、「地域医療連携パス」についても、説明会や研修会の開催などを通じ、その普及を働きかけてまいります。

また、医療機関への軽症患者の集中を抑制するため、毎日午前七時から十時まで、看護師と小児科医が電話で保護者等からの相談に応じている、県の「子ども急病電話相談」については、相談件数が増えており、その効果が上がっているところであります。今議会では、相談員一名を増員し、四名の相談体制で取り組めるよう、補正予算案を提案しているところであります。



本会議場の自席から教育問題などで再質問や要望をする服部議員